

## 倉吉市未来いきいき総合戦略会議 地域づくり部会への意見

大江 博文

### 1. 体験型教育旅行の推進

- (ア) 現在は、都市生徒との交流と農家の副収入取得を目指し推進している。
- (イ) 自然・農業・食を学ぶことは都市生徒へ重要な気づきのきっかけとなるが、市内生徒にも不足している知識であり伝えていくことが必要。市内全小学校が農家民泊をはじめとする体験を通じて、地域への愛着や誇りを植えつける貴重な経験を提供する。
- (ウ) 体験型教育旅行を推進するためには拠点となる施設が必要。
  - ① 廃校が計画されている山守小学校を体験型教育旅行の拠点として活用していくことを提案する。
  - ② 教育旅行の宿泊や雨天時の体験施設ほか、スポーツや勉強合宿等の施設としても活用が可能。
  - ③ 山守小学校の跡地は、教育旅行の拠点機能だけでなく山守地域のコミュニティの拠点として、コンビニも含めた JA 山守支所や行政手続き業務などの機能を集約することにより、山守地域を維持することにつなげる。
  - ④ 拠点施設の運営は行政だけでなく、地域や NPO、JA 等が知恵と力を出し合い進めていくことが必要である。

### 2. 若者が求めやすい宅地の提供

- (ア) 行政の不要となった土地、例えば山守地区であつたら山守保育園跡地を宅地として、安価で提供することにより若者の定住につなげる。
- (イ) 必要に応じて行政財産の活用だけでなく、ある程度の規模の土地を行政が取得し宅地として提供することで、小鴨地区のような子育て世帯の増加が他の地区にも広がることを期待。

### 3. 退職時期の就農者支援

- (ア) 60歳代前半はまだまだ農業の新たな担い手として活躍可能な年代。40歳未満の新規就農者への支援制度は現在でもあるが、60歳からを対象とした新たな就農支援も必要である。